

医療政策

介護支援

景気対策

防災対策

環境保全・
保護

林業政策

企業誘致

雇用創出

観光振興

医療や介護のサービスがスムーズに受けられるよう、体制を構築する。コロナウイルスのような感染症への対応のため、保健所機能を強化する。また、ダメージを受けた外食産業への消費税軽減税率適用を国に要望し、農業まで波及する景気好循環を生み出す。

温暖化による自然災害の増加に備え、水道などライフラインの防災対策、早期復旧への取り組みを強化。砂防ダムなど防災設備のメンテナンスを重視し、持続可能な林業で適切な間伐・治山を行う。都市では緑地を増やすヒートアイランド対策を行い熱中症被害の軽減を図る。

担い手人材と産業の育成、就職氷河期対策により、雇用を充実させる。製造業撤退などの課題に企業誘致で対応し、岐阜のモノづくりを継承・発展させる。隣接7県との観光交流や歴史ある岐阜の魅力を発信し、観光振興を図る。

立候補への熱意やビジョン、問題意識を、それぞれ「政治家を目指した理由」「地域のありたい姿」「解決したい課題」の設問で答えてもらい、具体的な政策を提示する。政策は、それらの「課題」を解決するために重要度が高いものを三つ示す。それぞれに、研究所が指定した51項目から関連度の高い施策を選び、具体的な説明も記してもらう。グラフで示す「政策注力分野」は、研究所が定めた10分野について、全体で100%となるように注力度を配分してもらう。

政治家を目指した理由

岐阜県職員として11年間、環境行政の実務に携わってきた。一方で、危機管理における政治の意思決定の遅れなどに翻弄され、疲弊する現場もみてきた。少子高齢化や公共施設の老朽化など岐阜県がこの先直面する幅広い課題に正面から向き合い、県民目線で持続可能な県政を先頭に立てて実現したいと考えた。

地域のありたい姿

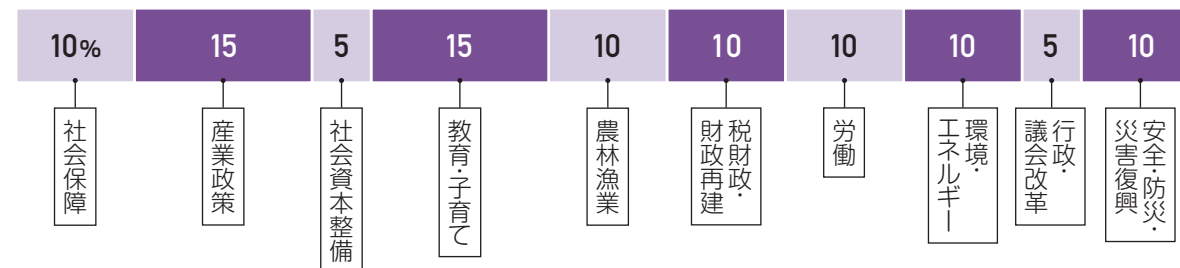
持続可能な開発目標（SDGs）の理念や、東京一極集中から地方分権という新たな時代を見据え、「住みよいまち岐阜」を目指す。子供たちがのびのび育つ子育てしやすいまち、現役世代が誇れる仕事があるまち、高齢者が安心できる福祉のまちの三つの柱で、人が住みたいと思える県を目指す。

解決したい課題

これまで増やし続けてきた公共施設・ハコモノ・現地機関等が維持管理しきれなくなる前に構造改革を行い、長期的な財政負担を軽減する。子育て支援などの県民・庶民目線の政策に予算の優先度（比重）を置いていく。

新田さんの 政策注力分野 (合計100%)

多様化する保育のニーズに寄り添い、また育児サポートや子供の居場所づくりを充実させるため、子育てに力点を置いた。また、コロナ禍からの景気・雇用回復のため、産業政策にも力点を置いた。社会資本と防災、財政と行革はそれぞれ一体として取り組むため計15%となるようにした。



新田 雄司さん（36） 無所属、新人



1984年、坂祝町出身。可児高卒、岐阜薬科大学大学院修士課程を修了し、2009年、県庁に入庁。技師として可茂事務所などで勤務し、知事選出馬のため昨年3月に退職した。薬剤師。坂祝町在住。

二十四日投票の知事選にあわせ、中日新聞社が早稲田大マニフェスト研究所と連携して、候補の政策などを共通の形式で尋ね、比較する「マニフェストスITCH」。今回は、無所属新人の元県職員、新田雄司

さん(三六)の回答を紹介する。いずれも無所属で現職の古田肇さん(七三)、新人の江崎禎英さん(五三)、稲垣豊子さん(六九)共産推薦の回答は十、十一日に掲載した。